

## 世界で誰も気づいていない、生体分子の機能を見つけ出す楽しさ

小川 温子 (お茶の水女子大学 教授)

## 研究の内容とやりがいについて

私は大学で、あらゆる細胞の表面や細胞間に含まれている糖鎖の研究をしています。糖鎖は、細胞の動き方や増殖、受精、発生、組織の形成、感染などの現象に関わることがわかってきましたが、まだよくわかっていない機能も多くあります。私は特に、組織の再生、アレルギー、感染、酵素反応の際に働く糖タンパク質の糖鎖について学生さん達と研究しています。世界でまだ誰も気づいていないことを発見し、そのしくみや役割を実験により解くことが面白く、将来、健康の向上に役立てることをめざしてやりがいを感じています。

## 研究と生活のバランスについて

育児期は時間のやり繰りに苦労しました。毎日18時台に帰ると実験を十分できない上、職場の人に何か言われなかと案じたり、1歳児に夜7時まで延長保育は可哀想という縁戚の言葉にも悩みました。しかし今は、子どもが小さい時期に他人の目など意識しない方がよく、短い時間で、幼い子と向き合い優しい穏やかな気持ちで過ごす方が大切だと思います。親の精神衛生には職場と家族の支援が不可欠で、最近では大学でも育児期の女性の仕事時間や職務に配慮するしくみができつつあります。親子とも大変な無理をせず、明るく仕事と育児を続けられる環境作りを皆さんが大人になるまでに一層進めることが必要ですね。

## 私の進路決定のきっかけ

大学進学時は、出身の関西圏での進学先選別に土壇場まで迷っていたところ、戦前生まれの頑固な主婦であった母から「東京の女子大で勉強したら」と示唆を受けました。日頃つましい母が東京まで行かせてくれるというのが意外でした。私はその頃反抗期でしたが、これだけは誘いにのった形です。理系で卒業後は仕事を続けたいという強い希望が私にあり、職業志向の女性がのびのびと教育を受けられ、ロールモデルも豊富な環境は、結果として適していました。大学院修了後は正規の就職が無かったのですが、しばらくして前任者が留学される折に母校に助手として雇われることになりました。

## 進路選択についてのメッセージ

医師、教師、エンジニア、研究者などに限られた理系の職種イメージから、現在は自然科学分野でも多様なキャリアパスを考慮して行こうという方向になっています。例えば専門性や研究経験から出発して、特許など知財の専門家、技術系公務員、独立行政法人のオフィサー、サイエンスライター・コーディネーター、遺伝カウンセラーなど職業の幅は広がってきています。自分の志向を探りながら広い基礎力を蓄えること、チャンスがあればつかめるよう情報のアンテナを張りましょう。新しい事にも挑戦するたくましさ柔軟性があるとよいと思います。

## &lt;小川温子 (おがわはるこ) プロフィール&gt;

- 1974年 高校卒業、お茶の水女子大学理学部化学科を経て大学院修士課程修了、製薬会社非常勤を経て、
- 1981年 お茶の水女子大学理学部助手、
- 1986年 理学博士取得、翌年第1子出産、
- 1990年 文部省在外研究員(カリフォルニア大学に留学)、翌年第2子出産、
- 1993年 お茶の水女子大学理学部・助教授、1994~1996年 文部省学術調査官(併任)、
- 1998年 大学院助教授を経て、
- 2005年 同教授、糖鎖科学教育研究センター長(併任)、現在に至る。

